



JEG ニュースレター 167号

www.jegschweiz.com

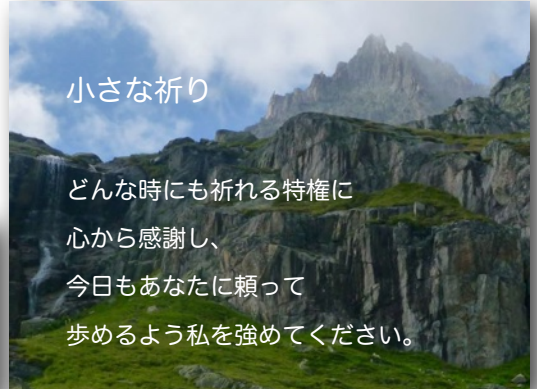
2018年9月23日発行

津田和明兄が本帰国
そのおおらかで暖かい性格で愛された津田和明兄が欧州8年間の生活を終えて本帰国されました。

ユース体験山岳ツアー
この夏、スイス中部ウルナーランドで主の創造美溢れる高山をスイスJEGのユースら14名が体験登山をしました。

第3回聖地旅行
スイスJEGはこの秋創立25周年を迎えます。その記念事業の一環として第3回聖地旅行を企画しました。

”集い”の証/感想文集
第35回ヨーロッパキリスト者の集いへの参加者の感動と恵みを証/感想文集にて分かち合います。



小さな祈り

どんな時にも祈れる特権に
心から感謝し、
今日もあなたに頼って
歩めるよう私を強めてください。

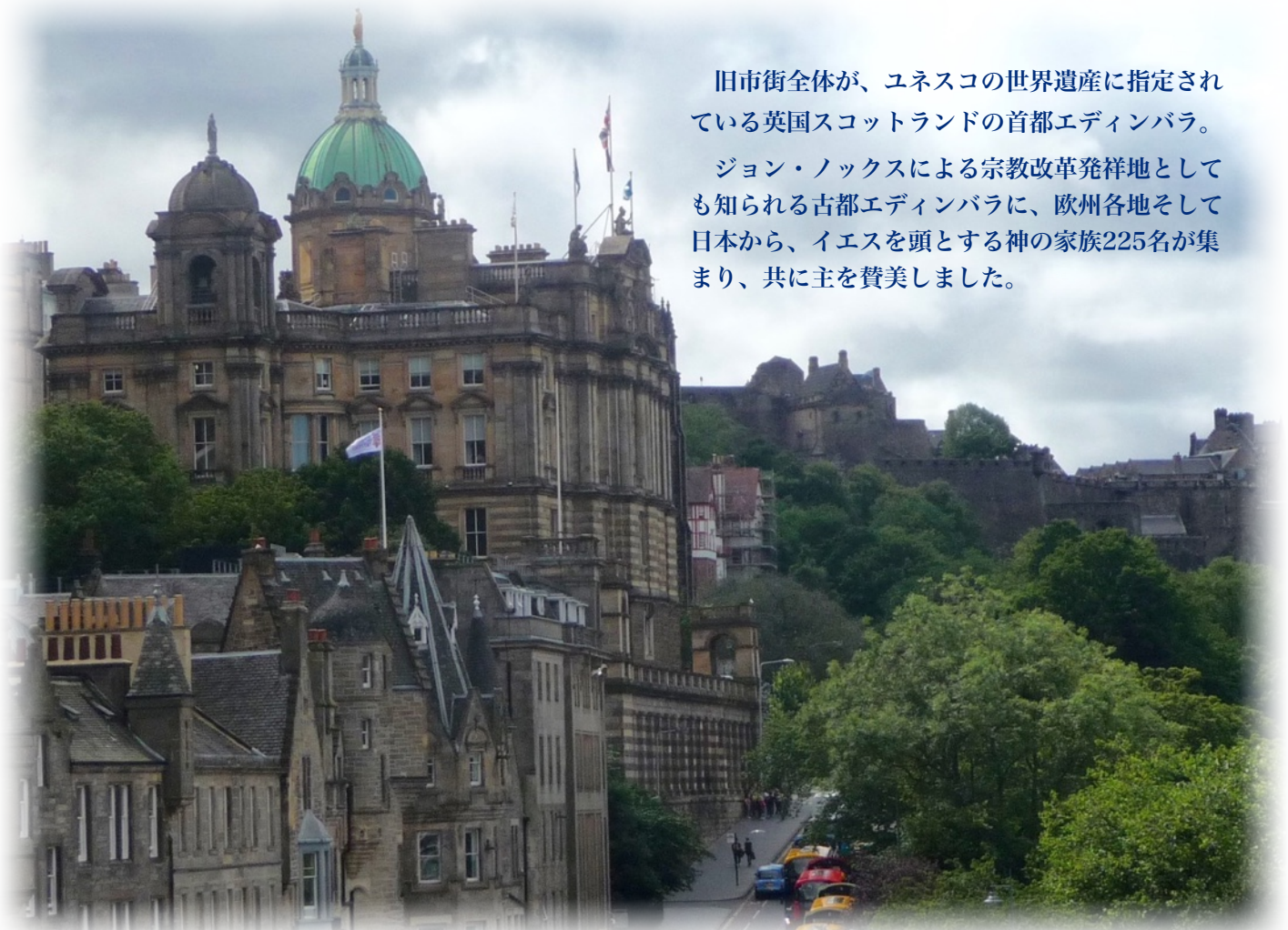
心を新たにすることで、自分を変えていただきたい。

ローマ書 12:2 新改訳2017

(第35回ヨーロッパ・キリスト者の集い 大会テーマ)

旧市街全体が、ユネスコの世界遺産に指定されている英国スコットランドの首都エディンバラ。

ジョン・ノックスによる宗教改革発祥地としても知られる古都エディンバラに、欧州各地そして日本から、イエスを頭とする神の家族225名が集まり、共に主を賛美しました。





1、ハンス・ウエスト牧師が説教

マイヤー牧師の夏季休暇をうけて、20年に渡って日本で宣教師として働かれたハンス・ウエスト牧師（元スイスアライアツ宣教団宣教師・パーゼル市ライナッハ・クリシヨナ教会前牧師）が、8月12日の日曜礼拝において”完全主義からの解放” Befreiung vom Perfektionismusをテーマに、みことばを解き明かして下さいました。神の恵みに生きることによって、現代病ともいえる完全主義から解放されるとのハンス・ウエスト牧師の説教はスイスJEGのHP/礼拝メッセージサイトおよび日本CGNTVスイス日本語福音キリスト教会のバイブルメッセージ japan.cgntv.net/detail.php?number=2972&category=1022 で視聴いただけます。

また、”旧約聖書に記されているキリストの救い”シリーズを終了されたマイヤー・マルチン牧師は、8月26日の説教から新シリーズとなる講解メッセージ”福音と律法の対決・ガラテヤ人への手紙”を開始されました。このメッセージもスイスJEGのHPにて視聴いただけます。 <https://www.jegschweiz.com/礼拝メッセージ-audio-video/>

2、津田和明兄が本帰国

優しく大らかな人柄で誰にでも親しまれてきたコントラバス奏者津田和明兄が、8年間のヨーロッパ留学と演奏活動を終えて、8月1日に本帰国されました。



津田兄はスイスの高校在学中にローザンヌ音楽院でコントラバスを習い始め、京都私立芸術大学を卒業後ヨーロッパに渡られました。その後、南ドイツさらにスイスで研鑽を積み演奏家としても活動してこられました。3年前からスイスJEGの会員となり賜物を用いて奏楽の奉仕のほか、ユースのリーダーとして奉仕をしていただきました。スイス・パーゼル音楽大学大学院をこの夏卒業したのを機に、神学校入学を目標に据え故郷の淡路島に帰られました。現在、音楽家として活動し学資を溜めながら、神学校入学への準備をされています。

3、ユース山岳スポーツ体験ツアー

7月28日（土）29日（日）の両日、スイス中央アルプス・ウルナーランドで山岳スポーツのベテランである兄（スイスJEGユース・バイブルスタディ担当）のガイドによる、ユースのための山岳ツアーが催行され、14名が参加しました。



さあ、Sustlihütte (2257m) へ！

この企画は、スイス・アルプスなど山岳地における様々なスポーツを、スイスJEGの若者達が肌で体験するために立てられました。はじめは、比較的簡単なハイキングから、急坂や尾根といった難しい山道を、ザイルや梯子を使って安全な登り方を学ぶため、手と腕をも用いて、数百メートルの急坂をよじ登りました。スストリ小屋に宿泊した翌日は、近くにあるロッククライミング場で岩登りの技術を学びました。参加者のモチベーションは高く、素晴らしい週末を、主が創造されたアルプスの大自然のなかでユース達が時を共に過ごし、一体感を育めたことは誠に感謝でした。

この企画は、スイス・アルプスなど山岳地における様々なスポーツを、スイスJEGの若者達が肌で体験するために立てられました。はじめは、比較的簡単なハイキングから、急坂や尾根といった難しい山道を、ザイルや梯子を使って安全な登り方を

4、第3回イスラエル旅行の参加者募集

2019年3月6日（水）から14日（木）まで、スイスJEG企画の創立25周年記念事業の第3回聖地旅行が催行されます。スイスJEGならびに欧州のキリスト者から参加者を現在募集中（10月29日まで）です。（添付フライヤーを参照）定員は、西岸訪問を見据え、行動の小回りがきく、25名とこじんまりとしたグループで、しかも非常に経済的な参加費（1800ユーロ）に抑えることができました。

このスイスJEG聖地旅行の特徴と魅力は次のようなものです。

- 1、最新イスラエル中東情勢レポート《オリーブ山便り》 <http://mtoilive.blog.fc2.com/> を発行されているエルサレム在住のクリスチャン・ジャーナリストの石堂ゆみ姉がガイドを務めてくださいます。
- 2、通常の聖地旅行団がまず行くことのない”旧約新約聖書”の宝庫である西岸地区への再訪を予定しています。
- 3、イエスをメシアと信じるユダヤ人・メシニックジューとの出会いと交わり（メシニックジュー神学校と礼拝参加）も予定しています。
- 4、日本語を母国語としない参加者には、ドイツ語（英語）でのデボーション/解説/翻訳をマイヤー牧師に加えていただきますので欧州人の伴侶にも安心して参加いただけます。

詳しい日程等は、添付のフライヤーをご参照ください。

5、エディンバラ ヨーロッパ・キリスト者の集いが終了

8月2日から5日まで英国エディンバラで開催されていた第35回ヨーロッパ・キリスト者の集い（225名参加）は祝福のなか無事に終了いたしました。スイスJegからは例年より少ない7名の参加があり、CS、中高生や記録等の奉仕で集いを支え、それぞれ大きな恵みを受け帰宅しました。集いの映像（フォトアルバム、公式記録ビデオ）ならびに音声（講演、説教）記録は、スイスJEGが管理する”ヨーロッパ・キリスト者の集い”のオフィシャルホームページに全てアップロードされましたので、ご利用ください。



<https://www.europetsudoi.net/第35回-edinburgh特設サイト/>

来年で36回となる”集い”は、フランクフルト日本語福音キリスト教会とルーマニア・トランスシルバニア集会の共催で、2019年7月25日（木）から28日（日）まで、ルーマニア西部トランスシルバニア州首都のクルージュ市で開催されます。第1信ならびに最新情報は”集い”公式HPにてご覧いただけます。

エディンバラの集いの最終日に公開された第36回の集いのプレゼンテーションビデオは、下記でご覧ください。

www.youtube.com/watch?time_continue=41&v=

6、世界各地から月報/ニュースレター&メルマガが届いています。

オーニングャー宣教師、クンツ・プスキラ宣教師、ラシェンコ・ベラ宣教師、ローゼンクランツNL、フーサー香織、シモン宣教師からの Rundbrief、フランクフルト日本語福音教会月報ひろば、工藤篤子メルマガ、井野葉由美メルマガ、バルセロナ日本語で聖書を読む会月報、デュッセルドルフ日本語キリスト教会月報、ケルン・ボン日本語キリスト教会月報、ルーマニア川井勝太郎宣教師の週報、ブリュッセル・ミサ便り、イザール通信、ミッション”宣教の声”が届いています。お読みにになりたい方は、松林までご連絡ください。

E D I N B O U R H

第35回

ヨーロッパ・キリスト者の集い

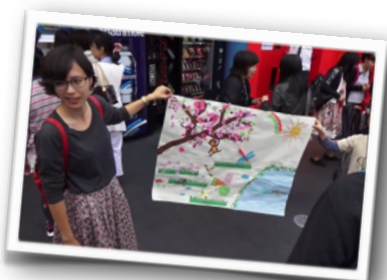
証と感想



限界を取り払って下さった神様

トムセン・カレン

スイス日本語福音キリスト教会



と決め、初のグループであるCSの奉仕をしました。

私が集い前に思い描いていたことは、CSで先生の話や他のリーダーたちや子供たちと一緒に分かち合ったり、賛美したり、祈ったりして過ごし、CSがない時は大人の礼拝にも参加してスモールグループで交わりもするのだと思ってました。

でも神様の計画は違いました。集い2ヶ月前に一番若い先生として自分の神様の出会いを子供たちに証して欲しいと頼まれました。私の証でいいかと不安でありながら、少しでも子供たちの将来の助けになるかなと願い受け入れました。

今回の集いで私は自分の限界と神様の限界は違うことを実感しました。集いでただ参加するだけでは物足りないと思い、自分も何か奉仕をしようとして子供



集いの初日、ミーティングで日本語が難しいからCSに入ることになった女の子がいることが知らされました。そこでやっぱり英語のネイティブな人がリードするのが一番いいのではないかということになり、一斉に視線が私の方に向きました。その場でリード経験ない私が一人で英語グループをリードすることになりました。

しかし、私に勤められるかが不安でした。リーダーは私一人だったので大人との礼拝参加はできなくなりました。ですから大人との交わりは食事の時のみになりました。人見知り、ちゃんと大人の会話に混じれるかまた不安でしたが、勇気を持って知らない人の隣に座って話して見たら、不安はだんだんなくなりました。

普段話さない人と会話する中で、いろんな出会いや信仰生活のことが聞けてすごく励まされ、心配だったCSでの証とリードに平安が与えられました。

神様が与えてくださった平安と励ましにより、集いの最後の証は上手く伝えられ、英語グループでも良い時間が過ごせ、大人の中でも知り合いができ、人前でマイクを握る緊張感を味わうことができました。

神様が私の立てた限界を取り払ってくださったおかげで自分の可能性を知ることができました。神の尊い励ましと御力が兄弟姉妹を通して与えられたことを感謝しています。

エディンバラの風に癒されて

川上寧

ブリュッセル日本語プロテスタント教会牧師



今年最も暑い時期の最中、涼しいエディンバラでの4日間は至福の時でした。そして今年はこの集いの中で講師の一人として立たせていただいたことは、私自身にとっ

て大きな恵みでありました。このような機会を与えてくださった大会実行委員の皆さま、そして神に感謝いたします。

今回の集いでは特に心に残った二つの言葉があります。残念ながら二つとも一字一句は正確に再現できませんが、一つは高橋裕子姉が証の中で語られた言葉です。そこで、高橋姉は自分が置かれている様々な立場や環境は「神さまが自分をそこに置いてくださったから」と語られました。何か自分の力、才能、努力によるのでは無く、神のご計画のために神がそのようにお決めになられた、というお証を聞いて励まされました。

そしてもう一つは、閉会礼拝の説教の中で、川井勝太郎牧師が語られた言葉です。正確には川井先生の言葉



ではなく、以前にフランクフルト日本語福音キリスト教会を牧会されていた田辺先生が、川井先生に語られたこととお聞きしました。「神は、伝道者のことを伝道者自身が思っている以上に心にかけていてくださる。」というような言葉であったかと思います。川井先生が慰められたこの言葉は、私をも慰めてくれました。

何か物事が自分にとって上手く進んでいると、それは自分の力だと過信する一方で、逆に正反対の状況に陥ると、今度は自己憐憫に陥るということをどれだけ私は繰り返してきたことでしょうか。それは気がつくと、いつの間にか神さまの思いを忘れ、神さまの思いから離れていたからであったと思います。

しかし、神さまの思いはいつもこの私に、私たち一人一人に注がれているということをお二方の言葉によって改めて心に刻まれました。ありがとうございます。

また、多くの方から今回の講演の感想をいただきましたことも感謝いたします。主の言葉を共に聞き、そして語らせていただくということの尊さを、また新たにさせていただきました。ありがとうございます。

父・御子・聖霊なる三位一体の神のお導きの中で、共に励まし慰め合い、時には諭し合いながら、主の御心に適うキリスト者として、教会として成長してまいりましょう。今後とも主にあってよろしく願いたします。

エディンバラ市内観光



神様の導きと守り

ヘス明美

スイス日本語福音キリスト教会

今年のスイスは、例年に無い記録的な猛暑が続きました。そして集いの会場は、スコットランドのエジンバラ。最高気温が20℃以下を示す天気予報を見ているだけでもワクワクしていました。チューリッヒからロンドンへ飛び、飛行機を乗り換えてエジンバラ行きのゲートへ行くと、他にも3人の兄弟姉妹と会います。ますます楽しみになりました。涼しいエジンバラ、そして会場となる大学へ無事に到着。

神様の恵みで溢れている雰囲気を感じて、とても嬉しくなりました。4日間の集いを通して、ずっと神様の守りと導きを感じたように思います。御言葉

を通して福音を語って下さる先生御一人御一人のメッセージも、参加者一人一人との出会いにも感謝が溢れる想いでした。ミュンヘンの安藤先生が語って下さったように、これからも変わらないイエス・キリストを見続けていく事と聖書にしっかりと留まっていく事を大事にして行きたいと思います。



そして、率直に、また力強く福音を語って下さったルーマニアの川井先生のメッセージから、イエス・キリストの愛と神様から私達に対する大きな期待をしっかりと学ぶことが出来ました。来年ルーマニアでの集いも期待しつつ、そこまで主のために走り、働き続けることが出来るよう、主に常に祈りつつ、歩んで行きたいと思っています。参加させていただき、心から感謝します。

嬉しかった交わりと話し合いの機会

ウンターベルガー玲子・友貴・勇祈

ウイーン

今回、19歳と16歳の息子たちが初めて参加しました。残念ながら本人たちの日本語力が十分でないために、メッセージがあまり理解できず、積極的に参加できなかったようです。ただ、似た境遇の同年代の子供達や若い奉仕者の方々とのお会いがあったのがとてもよかったです。

次男はピアノでのコード弾きが得意なので賛美チームに誘っていただきました。初めは渋々参加したようですが、最終的にはとても楽しかったらしく、もっとたくさんできなかったのが残念だったと言っています。

信仰とは距離を置きつつある年頃の彼らをそのまま受け入れて、仲間に加えてくださって、心から感謝します。奉仕チームの皆さん、みなさんは彼らにとって祝福です。準備、子供達への愛、本当にありがとうございました。

(以下、本人たちのコメントの代筆)

メッセージが色々な先生方だったのが良かった。特に日本語のスタイルがそれぞれ違って、自分でもある程度理解できるメッセージを聞いたのも嬉しかった。難しい話し方の先生の時にはほとんど理解できなかった。

たので、話に集中できず、居眠りしたり、携帯をのぞいたりするなど、参加のモチベーションがさがらず申し訳なかった。

奉仕のチームの人たちがとてもオープンで、とてもいい雰囲気だったのが良かった。スモールグループも食事の時も常に自分たちと一緒にいて、交わり話し合う機会を作ってくれて嬉しかった。

休み時間が少なかったのもう少し休憩や自由時間が欲しかった。自分はやたらと眠たくなってしまいうティーンエイジャーなので、じっと座って話をしたりする時間が多いと辛い。もしかしたら、座ってディスカッションする時間と体を動かす時間が交互にあれば、少しはよかったのかもしれない。あまり積極的に話し合いに参加しなかったけれど、参加を強制されたりしなかったのがありがたく、嬉しかった。



僕は日本語のメッセージを10%ぐらいしか理解できなかったもので、初日は特に早朝に起きてエンジンバラ入りしたこともあり、夜のプログラムは全然集中できず眠ってしまった。ごめんなさい！通訳、もしくは本大会の方のようにメッセージ内容の英・独訳あらずじがもらえていたら、もう少しは内容も頭に入って、参加できたのかもしれない。



中高科で学んだ恵ということ

テーリカンガス里佳さん

OVMCフィンランド



今回は自分のコンフォータブルゾーンから出る事を示され、今まで一度も経験した事のない中高科での奉仕をさせていただく事になりました。自分にもティーンエイジャーの子が二人いますが、今回は彼らは参加しなかったので中高科へ顔を出すこともできました。自分は言葉で気のきいたことも言うこともできず、改めて「何もできない者」という働きぶりだったと思いますが、メッセンジャーの先生方の御言葉により若者一人一人が建て上げられていくよう祈ります。若者一人一人に自分の夢があり、将来日本と他の文化を受け継いでいる彼らが、世の光、地の塩となり影響を与え主のしもべとして召された道で活躍していくことに希望を持ちます。

もう一つ嬉しかったのは、青年リーダー達が率先して4日間導いてくれ、おばさんは特に何もなくていいというのが、驚きでした。個人的には「恵」という事に黙想する時間が与えられ、私は日々、1デナリ=1日の給料では買えない恵を受けているのだという事に気がつかされました。世の人は「幸せ」というものを自分の努力や金銭が増える事で得ようとしています。私が受けたものは私が望んでいなくても、望んでも私の能力がない所に与えられたという事で、主をほめたたえます。この恵を「恵」として理解できることが恵で、世でいう「運がいい」とか「引き寄せの法則」などでは説明も理解もできない福音を、もっと周りに伝えていけたらと思います。

神様、どうして？ 疑問と感謝

Fredrich 希與子

ハンブルグ日本語福音キリスト教会

今年も「集い」に参加できたこと、多くの恵みを頂けたこと、主人、長女と孫3名と一緒にいられたことを感謝いたします。実行委員会の方々、お疲れ様でした。少人数であれだけの会をお世話して下さったこと、心から感謝いたします。

エディンバラの街も素晴らしかったです。また、行きたいと思う街です。すべてハッピーといたいところですが、、、神様どうして？という疑問が一つ。

次女の家族5人が、突然のハプニングのために、全然参加できなかったのです！

ハンブルグからの格安飛行機イージージェットが、荷物も出し、いよいよ手荷物検査というときに、キャンセルになっていたのです。別の飛行機もなく、参加をあきらめざるをえない事態となりました。この家族の孫二人、幼少科を楽しみにしていたはずなのに。私たち夫婦、娘二人、婿、孫6人みんなで参加することを楽しみにしていたのに。そして、ずっと祈っていたのに。キャンセルの理由は



いまだにわかりません。お金がもどってくるのかも不明です。格安航空の無慈悲さに言葉もありません。

神様、なぜですか、と私は問いました。今では、何か、私の分からないところで、神様が、この次女一家に別のご計画をもっていらっしゃるのでは、と思われています。私たちは、自分たちの思惑と違う事態を前に、あれこれ、心を騒がせて、不信感や文句などを並べ立てますが、最終的に何か良きことを神様が用意して下さることを信じれば、前向きに歩いていくことができると思います。高価なナルドの香油を最後の一滴までささげたマリアについて、賛美礼拝のとき、内村先生のメッセージの中で、学びました。

イエス様は、自分という壺を割って、私たちのために命のすべてを献げて下さったと。私たちも、壺を割る信仰を頂いて、いろんなことに立ち向かうことができると思います。「集い」参加が閉ざされ、大きなストレスにさらされた次女一家の上に主が、別の宝を用意して下さっているのだと確信します。このように考えることができる幸せをわたしは、今年の「集い」から、頂きました。

エディンバラ日本語教会の上に神様の豊かな祝福がありますように。ありがとうございました。



信仰から信仰へ

盛永正子

エディンバラ

今回のキリスト者の集いの会場がエジンバラということもあり、また盛永の後押しもあって、2年ぶりに出席しました。パク先生ご夫妻や実行委員の皆様は、それまで何の面識もない私を、エジンバラ日本語教会の会員として参加を受け入れてくださいました。

ただ単に参加するだけではなく、大事な奉仕までさせて下さいました。心から感謝します。会場は、学生時代を思わせるような、階段式の講演会場で、十分に準備された先生方の説教や講演を、一言一句、十分に聞き取ることが出来ました。単に聞き取れただけではなく、先生方の語る福音の言葉は、私たちが「信仰から信仰に」押し出して下さいました。(ローマ1・17)「信仰から信仰に」、これこそが、キリスト者の集いに参加する目的でしょう。私は、今回のキリスト者の集いに参加して、確実に、「信仰から信仰へ」の恵みを頂きました。



またお名前だけを存じ上げています先生方にも、お目にかかれて感謝でした。先生方だけではなく、駅から会場に着くまでの間、初めてお目にかかった姉妹方や旧知の方々との出会い、また楽しい挨拶や語らひに、これから始まる「キリスト者の集い」で、主は、私を、いや私たち全てを、豊かに祝福して下さいました。事実、「キリスト者の集い」の間中、主がアブラムに「私はあなたを祝福する」と言われたように、主は、私たちをも祝福しておられると実感する楽しい4日間でした。

多くを学ばせて頂いた素晴らしい「キリスト者の集い」でした。私たちが「信仰から信仰へ、「確信から確信へ」と押し出して下さった「キリスト者の集い」でした。お声をかけて下さった皆様、有り難うございます。お交わり頂いた皆様、有り難うございました。エジンバラ日本語教会の皆様、皆様の祈り、皆様の奉仕、有り難うございました。

パク先生ご夫妻、山形澤様、彦田理矢子様、有り難うございました。深く感謝申し上げます。主が、先生方の労苦を豊かにねぎらって下さるよう、また主の祝福が溢れますよう、お祈りします。主にありて。

一生に一度の夢のような時

矢吹徹

宇都宮聖書バプテスト教会牧師

今回はハンブルク教会の一員として参加させて頂きましたが、実際は、ハンブルクで奉仕をして一週間も経っていない、ヨーロッパの右も左も分からない中で参加でした。しかしエディンバラには私の予想を超える素敵な交わりが備えられていて、初めて出会った方々とも親しくなれ、うれしい4日間となりました。

井野葉由美先生の代理ということで幼少科の担当となりましたが、子ども達と多くの時間を過ごし、数多くの恵みを頂いたのも感謝でした。何よりも幼少科の先生方が皆、この働きのために献身的に



的に労している姿に感動しました。しかしそれは、幼少科だけではなく中高科の先生方にも、そして参加した皆さんにも感じたものでした。奉仕に関わった者も、そうでない者も、受動的に4日間を過ごすのではなく、積極的に過ごしている姿がとても印象的で、新鮮だったのです。

昨今の日本の教会では、安い、近い、短い集会、いわゆる「安・近・短」が好まれています。私が牧会する教会でも、一泊の修養会を企画する時に、会場が隣県だと「え～、遠い」と嫌がられ、「一泊は大変だか

ら日帰りで企画して下さい」との声も挙がります。それは、日本人は忙しく、休みが少ないからという理由だけではないように思うのです。もしかしたら、多くのもので満たされていて、霊的な渴望を感じなくなっているのかもしれませんが。

毎年ヨーロッパキリスト者の集いに参加している皆さんには、4日間に及ぶ盛りだくさんのプログラムが当たり前かもしれませんが、初参加の私には1970年代、80年代の活気あふれた日本の教会の姿を思い出すような感動でした。

そのような感動を神様からプレゼントされた私でしたが、夢のような時間は一生に一度のような気がして、出会う人、出会う人に「これが最初で最後の参加です」と言っていました。しかし皆さんの応えは一律に、「いや、きっとまた参加出来ますよ」でした。その言葉が現実になったらいいなあと、心の片隅で願っています。

素敵なプログラム満載でしたが、特に最終夜のスコットランドのフォークダンス、ケリーは忘れられない思い出となりました。日本に居たら、日本のキャンプだったら踊らなかつたであろう私が、ヨーロッパの香りのせい、皆さんの陽気さのせい、普段の殻が破れて、汗だくになりながら笑顔いっぱい踊っていました。自分でもびっくりです。

今回の集いを準備して下さった皆さん、ともに参加した皆さんに感謝しつつ、来年の祝福を心から願っています。



新鮮なアイデアに感謝!

フーヴェク栄

ハノーファー聖書の集い

スコットランドは私達の未知の国なので、集い開始の一週間前からハイランド、

ローランド、海辺を

周ってから参加しよう、と楽しみに計画しました。羊が放牧されてる、のんびり豊かな自然の中に突如現れた大きな修道院、礼拝堂の廃墟メルローズ、次の日は観光客でにぎわう海辺の町を散策すると、前日より高く青空にそびえるセント・アンドリュース大聖堂のゴシック塔の名残、その廃墟に佇んでいました。何百年かけて築かれた主の家が富と権力が絡む闘争でここまで粉々になる過程を『愛そのものであられる三位一体の主』はどのような御心でご覧になっておられただろう……。この思いと共に修養会場に到着しました。



すると、宗派も国籍も超えて一致協力のエジンバラ集会のオリエンテーションに「まさにこれ!ハレルヤ!」と心の中で叫びました。ヨーロッパ各国から日本から主の御名のもとに集い、カトリック、プロテスタント、教団、バプテスト派等々一同が心ひとつに共に祈り、讃美しつつ、この地、スコットランドにおいての『キリスト者の変化』を主はお喜びに違いない、と確信しました。

大学構内での集い、講義室に坐って、上から諸先生方の講演を聴講していると学生時代に戻った気分でした。昼食は軽くサンドイッチ、というアイデアも感心!食事時間が短縮され、食後眠くないので、午後の行動も軽快でした。そして最後の夜のサプライズ=ケイリィで私達は身も心も躍動し、新しい息吹きを頂きました。若い方々の新鮮なアイデアに心から感謝します。

皆様のこれからの主のお働きの上に、益々主の豊かな御祝福がありますようお祈り致します。



クリスチャンの成長とは 富永重厚さん パリプロテスタント日本語キリスト教会



第35回のヨーロッパ・キリスト者の集いはエディンバラ日本語教会の主催でした。そのテーマはローマ書12章2節「心を新たにすることで、自分を変えて頂きなさい。」(新改訳2017)から「キリスト者の変化と成長」でした。

実はパリ教会の礼拝前の聖書の学び会ではローマ書の学びを続けてきました。しっかりと「みことば」に立ったクリスチャンになりたいとの考えからです。清水正夫先生が着任される前の最後の聖日の学びで16章までの学びを終えたばかりでしたので、集いでローマ書12章2節が取り上げられ、「キリスト者の変化と成長」がテーマでしたので大いに関心を持って集いに参加することが出来ました。

今回の集いでご奉仕をされたメッセンジャーから語られた言葉で最も多かったのは「みことば」でした。

「みことばは、あなたがたを育成し、すべての聖なるものとされた人々の中において御国を継がせることができます。」(使徒20:32)

「みことば」についてはその他、コリント第一1:18、ヨハネ15:7等 多くの聖書の箇所から語られました。



私たちクリスチャンは神さまの一方的ご愛と恵みによって救われ義とされたあと、聖書のみことば=聖霊に導かれて成長していくことを知っています。

今回の主題聖句はローマ書12章2節ですが私たちパリ教会備え付けの聖書新改訳第三版では「心を一心にして、自分を変えなさい」となっています。口語訳聖書では「心を新たにすることによって、造りかえられ」となっており新共同訳では「心を新たにしておいて自分を変えていただき」となっています。ここまでのパウロのローマ書での教えからすれば、新改訳のように「自分を変える」という能動態での理解では無理があります。むしろ「神さまに造りかえていただく」という口語訳や新共同訳がふさわしいのではないのでしょうか。



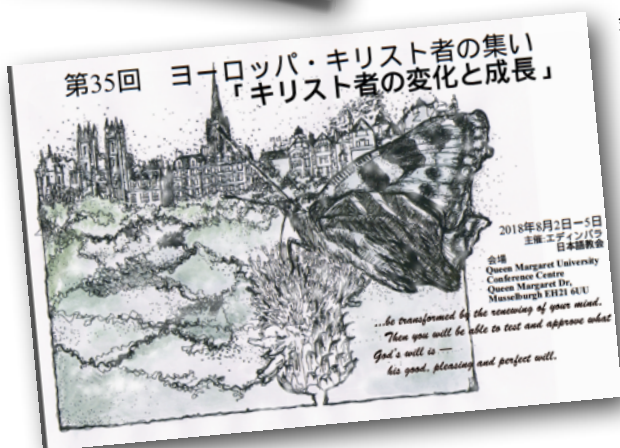
集い2日目の講演でオランダ南部日本語キリスト教会の村岡先生は「心を新たにする」とはギリシャ語では「知性を切り替えて」の意味であると教えて下さいました。確かにフランス語の聖書でも「知性」intelligenceとなっています。つまり「神に関する知識を新たにすることによって神さまに造り変えていただきなさい」との意味になります。神に関する知識とは聖書に他なりません。

日々聖書に学んでいくことによって私たちは造り変えられていきます。その前の12章1節には「あなたがたのからだを、神に受け入れられる、清い、生きた供え物としてささげなさい。それこそ、あなたがたの霊的な礼拝です。」とあります。孫先生は礼拝の本質は「いけにえ」であり、霊的な礼拝とは自分の最も大事なものを自発的に奉げることだと語られました。

つまり罪赦され自由になった私たちが、神の恵みに感謝して自発的に喜んで自分のすべてを捧げていくことが礼拝であり、神の愛とあわれみに対する私たちの応答であると知ることができました。

クリスチャンの成長とは、こうして神さまによって造り変え続けていただくことであり、これこそ聖書の知的・理性的結論ということになります。今回の集いのしおりの表紙にさなぎから変えられて美しい蝶になった姿が描かれていました。まさにこのことを教えて頂きました。

今回も主にある多くのヨーロッパのそして日本からの愛する兄弟姉妹との出会いがありました。これは集いの大きな喜びです。主催教会のパクジェフン先生初めエディンバラ日本語教会の皆さまに心から感謝を致します。主の豊かな祝福がありますように。アーメン



クリスチャンの原点とは

馬場晶子

ロンドンJCF

毎年夏の恒例行事であるキリスト者の集いに長女家族と一緒に参加しました。今年はスコットランドのエジンバラで開催ということで、言葉の心配もなく気軽に電車で出かけました。

集い参加回数も数えられないほどになりましたが、今年は例年お会いする懐かしいお顔が沢山欠けていて、ちょっと寂しい気持ちになりました。中でも賛美を毎年リードされる姉妹がおられなかったのは、何か物足りなく、寂しく、時代の変化を感じました。その割には、若い世代が少なかったのは、残念でしたが。

今年のテーマは『キリスト者の変化と成長』と

いうことで、日々成長に足踏みしている私にはタイムリーなテーマでした。子供が成長していくようにクリスチャンも成長が必要です。その成長とはイエス様に似た者となっていくことです。罪許された者で

あっても、天国行きの切符をいただいた者としても、油断していると成長どころか、後退していくことになります。イエス様を生涯のロールモデルとし、そのよ



うに変化、成長したいと願っています。

開会礼拝でバク先生が語られた言葉がとても印象に残っています。成長するためには、イエス様と私の関係を大切にすること。その中で神様だけを求め、その臨在を感じ、神さまの家にとどまること。神様の近くにいるときにこそ、自分の罪が許されていることを知ることができる。

クリスチャンの原点とは、罪が赦され、神の子とされたことです。日々の生活の中でなんとこのことを忘れがちでしょうか。神様に対して全くの恩知らずです。神様の近きを離れるとつい隣人を非難し、裁きあうこととなります。簡単に古い自分に戻ってしまいます。今回の集いを通して、この基本中の基本を再確認できたことは大きな恵みとなりました。

少ない人数の中で集いの用意をし、開催されたエジンバラ日本語教会の兄姉に感謝とともに、その影で多くの姉妹がたのご奉仕があったことも感謝しています。

最終日の夜のスコットランドのフォークダンスケイリーは、とても楽しく、知らない方々と手をつなぎ、笑い転げ、青春時代に戻ったような気持ちになりました。一晩中踊りたかった！これはとても良い企画だったと思います。ありがとうございました。



1つ1つ探り、祈り、示されつつ

ピブワース裕美

南ロンドン日本語キリスト教会

神様の恵と導きのうちにエディンバラで行われた集いに参加できた事を感謝しております。申込み時点では南ロンドン日本語教会は水面下で準備しているところで教会としては、スタートしていませんでした。牧師の清水師もまだ、日本におりました。そのような状態でしたが、感謝な事に陸続きで行けるエディンバラに思った以上に多くの参加者が集まりました。

私も含め久しぶりの参加者や、初めて集いに参加する者が、期待と様々な思いを持って、車や列車で北上しました。久しぶりに会う人、初めて会う人との交わり。同じ神様を信じ、信仰している方々と共にいることの心地良さを感じました。3泊4日はあっという間で、集いの期間中、多くの恵みとチャレンジを受けて、来た道を南下しました。今、こうして振り返ると、多くの恵み、そして、チャレンジと共に信仰の友も与えて下さった事に、神様の導きを感じます。

今回の集いのテーマ「キリスト者の変化と成長」とは、教会が建てあげられようとしている、南ロンドン日本語教会にとっても、考えさせられるテーマでした。4月1日のイースターにスタートした教会で、一筋縄でいかないところに変化がしいられ成長させられている事を感じます。1つ1つ探り、祈り、示されつつ、神様のみこころに叶った土台が築けるように、祈りに覚えて頂けたら幸いです。



懐かしい方々との出会いに貴重な証

安藤廣之

ミュンヘン日本語キリスト教会牧師

キリスト者の集いは毎年懐かしい方々にお会い出来、集中してメッセージや講演が聞けるので本当に感謝です。今回も印象深いお話を何回も伺い、スモールグループでも貴重なお証しを伺えました。



エジンバラ日本語教会とその関係者の皆さんには心から感謝申し上げます。ただし今回謝らなければならないことがあります。私は8月3日の早

天祈祷会でのショートメッセージを担当させて頂きましたが、前日の練習の時にファイルに説教原稿のページを間違えて入れ、本番中にそれに気付き、一旦止まってから元に戻った為、聴いている方はさぞ聴き辛かったと思います。

この様な失態は今までも礼拝で何度かしましたが、集いの場ですってしまったことを大変申し訳なく思います。

今後は直前の確認を怠らないように、又自分が説教者として一層碎かれる機会としたいものです。

主は素晴らしいお方

永井敏夫

在欧日本人宣教会

キリスト者の集いに初参加して、少し考えてみたことを記してみます。在欧日本人宣教会として、さらに顔が見える繋がりサポートを祈りながらさせて頂けたらと思います。的外れの箇所もあるかもしれませんが、ご容赦ください。



- * **機会** (みなさん良い表情でした)
 - ・再会の喜びを分かち合う場
 - ・日本語でみことばを聞き共に礼拝する場
 - ・欧州にいる日本人を意識する場

* 企画 (例)

- ・日本の出身地、滞在地毎に集まり、分かち合い、その地域と教会を祝福し、祈る機会
- ・欧州で滞在する国、地域の人々を覚えて祈る機会
- ・欧州の日本語教会のスタートを振り返り、歩みを感謝する機会 (例えば40回記念の集いなどで)
- ・日本の教会の現状と課題を知り、祈る機会
- ・アジア、アメリカ、アフリカの日本語教会の現状と課題を知り、祈る機会
- ・スモールグループの機会を三回に (互いに聞き、祈り合う間柄に。集い後も関係が続くように)



* 奉仕 (数年に一度でも)

- ・賛美チームまたは賛美グループ、チャイルドケア、ユースプログラムの奉仕者を日本から募集する (リーダーと諸奉仕者)

* 将来は、ネットワークの形成を。

→例えばヨーロッパジャパンニーズクリスチャンネットワーク:EJCN



- ・教職の交わり
- ・キリスト者の集いの方向性
- ・説教支援 (デブテーション時の説教含む)
- ・日本の教会との繋がり
- ・教職者のリクルート、ケアなど

○**留意点**:各教会がそれぞれのユニークさを失わずに、互いの歴史性、自主性を尊重しつつ、互いに認めあい、サポートしあえる関係を堅持していくためのネットワーク。(教団、団体化を志向しない。)

在欧日本人宣教会が、欧州の日本語教会にどのように繋がり続けることが良いのかさらに祈っていききたいと思います。欧州での日本語宣教が進んでいくことを願い、欧州の教会と繋がり、サポート役として歩んでいきたいと思っています。在欧にこのことで動きをと言うアドバイスなどありましたらお聞かせください。主は素晴らしいお方です。これからも、いつまでも。

変えるべきもの、変えてはいけないもの

森田衛

パリプロテスタント日本語キリスト教会

今回僕は初めてヨーロッパキリスト者の集いに参加しました。また大勢のクリスチャンが集まる集いに初めから終わりまで参加したのも初めてでした。日本にいた時もこのような大勢のクリスチャンが集まる集会は毎年のように開催されていましたが、昔から野球をやっている関係で休みの日などは必ずと言っていいほど試合や練習で参加が叶いませんでした。しかしフランスリーグは8月にはバカンスになり試合も練習も無く、今回は参加出来ました。

集いの申込は僕がフランスに到着する3月末には締め切られていましたが、パリ教会の兄弟姉妹の愛ある働きとエジンバラ教会の兄弟姉妹の献身的なご奉仕により行けることになりました。集い参加が決まってからは毎日毎日楽しみで仕方がなく、時の経過がとても遅く感じました。

いよいよ当日になり、初日の開会礼拝エジンバラ日本語教会のバク・ジェフン師のメッセージで、詩篇23編から語られました。ダビデが辛い中であっても「変わることをない神様自身」に希望を持って神様のみを求め、一步を踏み出していった事を学びました。

2日目の早天祈祷会ミュンヘン教会の安藤廣之師の第二テモテ3章14~17節からのメッセージで「聖書信仰に立つ大切さ」、次の講演村岡教授のローマ12章からの「聖書を文字通り読むだけでなく、その時代の背景や筆者の思いを深く読む大切さ」を学びました。講演2フランクフルト教会矢吹博師の第1コリント1章18~25節からのメッセージで、キリストの十字架を正しく世界に伝えることを聴き、自分も強くそうしたいと思いました。

3日目の早天祈祷会はシュツットガルトの浅野康師のヨハネ15章、ローマ7章、第1ヨハネ3章21.22節からのメッセージで、ぶどうの木であるイエス様にとどまる必要性を学び、自分がその枝であり、御心の実を結ぶことを常に願うものでありたいと思われました。

講演3はブリュッセル教会からの川上寧師のメッセージで、使徒2章、第1コリント12章7節、ヨハネ13章、第1ヨハネ4章を中心に、日々聖霊の助けがあり、神様の思いで満たされていく時に信仰の成長があることを学びました。賛美の夕べのメッセージはミラノ賛美教会の内村伸之師でマルコ14章から、マリヤが高価な香油をイエス様に全て捧げたように、僕も自分に出来る精一杯をお捧げしたいと思いました。と同時に主ご自身も十字架で全てを私達の為に捧げて下さった愛を改めて感謝しました。

最終日の早天祈祷会はコピリシ教会の孫信一師から「礼拝」についてエペソ4章15節、ローマ12章から教えを受けました。自らも生きた供え物として主にお捧げしていきたいと思いました。



主日礼拝のトランスシルバニア日本語集会の川井勝太郎師の笑いあり涙ありの熱いメッセージは、ピレモンの手紙から、神様は役に立たないオネシモのような者をも役に立つ者として変えられたように僕たち一人一人にも期待して下さい、どんな状態であっても最善に導いてくださる方であると教えられました！とても厳しいルーマニアでの宣教の働きをお聞きし、神様にとって不可能は無いことを、先生の証を通して改めて思いました。

霊の糧で満腹にさせて頂き本当に主に感謝でした！長々と書いてしまいましたが、まだ神様からの恵みは尽きず皆様に分け与えたいのでお付き合いください！

2日目の市内観光はグループごとに分かれエジンバラ市内を散策し兄弟姉妹と共にその歴史的建造物を堪能しました。僕のグループのリーダーであるエジンバラ教会のバク先生は色々な場所を、バラバラに動く僕達を、とても献身的に、まるで羊飼いのごとく導くお仕えする姿にとても感心させられました！

また、大会会場での毎日の食事とても良い時となりました。ヨーロッパ各地の教会の兄弟姉妹と日替わりにお話をしてとても励ましを受け、連絡先も交換出来てこれまで以上に祈りのネットワークが拡大しました。話し過ぎていつも最後まで残ってしまい時間が足りないくらいで楽しいひと時でした！

3日目には庭でサッカーをしたり、夜にはケイリィという踊りを体験して、さらに兄弟姉妹との仲も深まり、サイコー！でした！そしてあっという間にこの四日間の集いが終わり、無事にフランスに帰って来れました！今回こうして素晴らしい時を過ごせたのも、奉仕して下さいエジンバラ教会の本当に素晴らしいお働き、そして何より全てを満たして下さいなる神様の導きに他なりません！

今回のテーマの『キリスト者の変化と成長』主題聖句ローマ12章2節(心を新たにすることで自分を変えていただきなさい。)から各地の先生方に色々な角度から教えを頂き、変えていかなければならない自分自身の罪の性質について深く考えさせられました。またその為には反対に変えてはならない主イエスキリストへの信仰、聖書のみことばを固く心に結び歩む必要を強く感じました！

『わがたましいよ。主をほめたたえよ。主の良くしてくださったことを何一つ忘れるな。主は、あなたのすべての咎を赦し、あなたのすべての病をいやし、あなたのいのちを穴から贖い、あなたに、恵みとあわれみとの冠をかぶらせ、あなたの一生を良いもので満たされる。あなたの若さは、わしのように、新しくなる。』詩篇103編2~5節

神様の素晴らしい祝福がエジンバラ教会に、またヨーロッパ各地の教会に降り注ぎますようにお祈りしています！お交わりをして下さった兄弟姉妹の皆様本当にありがとうございました！



♪主イエスとともに♪

本園万子

スイス日本語福音キリスト教会

集いへの参加申し込みを終え、直ぐに直行便を予約。6月に入ってから、航空会社の都合により、エディンバラに1日長く滞在することに。航空会社はその費用を出してくれ、ちょっと得した気分空港へと。チェックインカウンターは長蛇の列で、滑り込みセーフでゲートへ。空港でトラブルしていた息子と電話で話しているうちに、出発時刻2分前。何と間違ったゲートにいたんです。それから、正しいゲートへまっしぐら。グランドホステスは、「ゲートは閉めました。」と冷たく。「どうしても乗れませんか？」と食い下がる私。「じゃあ、パイロットに聞いてみます。」と。まだ、航空機のドアが閉まっていなかったの、滑り込みセーフ。注目を浴びながらの着席。



無事、一日早くエディンバラに着き、グーグルマップを頼りに、ホテルへと。まず、目の前に迫ったのが、石の階段。「えっ？このスーツケースで？」。

そのまま進むと、だれも歩いていない泥道に入り次第に不安に。急に視界が開け、人がいる。そこが、カルトン・ヒルだということ、翌日エディンバラ城からの眺めで気づきました。道を尋ねたドイツ人には間違っただ道を教えられ、結局グーグルナビで何とかホテルへと。汗だくで着いたホテルは玄関も階段、部屋の入りぐ口までも階段、何と部屋に入ったら先ず階段を上がってからベッド。ホテルは丘の斜面に建っているのです。気を取り直して、部屋のチェックをしたら窓が閉まらない。そして、突然の夕立。仕方がないので、分厚いカーテンを閉めての雨水防止。

いつもの私なら、完全に切れていたかもしれませんが、気持ちは平安。「飛行に乗れてよかったな。」「雨が降る前にホテルに着いて本当に良かった。」と感謝でいっぱい。飛行機やバスの中で読んできた、「なぜ、良い人に悪いことが起こるのか」のおかげだったかなと思いました。翌日、エディンバラの名所を観光し、予定通り集い会場へと。

2年前からCSの奉仕を始め、今回は3回目。とても楽しみにしてきました。春から夏にかけて、喉を痛め、集いに行くまでは、大きな声で話さない、高音で歌わないよう心がけ、CSの奉仕リーダーである矢吹育代先生からも祈っ



ていただき、集いでは何の支障もなく奉仕をさせていただくことができました。

私は、いつも一人で申し込み、道中も一人旅です。食堂へ行くと、もうすでに知り合いや家族のグループが出来ていて、どこに座ろうかと思っていると、常に様々な素晴らしい方のお隣に着席することができます。私は、どなたの横に座るかは、主が決めてくださると信じていますから。



特に、奉仕のために、早く食堂へ向かい、早めに席を立つので、個人行動が一番なのです。しかし、思い悩むこともなく常に私の席は予約されていました。今回も、奉仕の中での限られた時間内に、良き信仰の友に巡り合い感謝です。神さまの恵みに偶然はないのです。

さて、テーマのCSの奉仕ですが、参加してくれた子供たちの、キラキラした目の輝きには、毎回感動を覚えます。それにも増して、奉仕者の先生方のキラキラした目の輝きもです。連れてきたくださる保護者のみなさんの目もキラキラ。「たくさんの方のために、何にも出席できなくて残念ね。」と同情されることがありますが、スモールグループに参加できなくても、礼拝に出席できなくても、お友だちとおしゃべりできなくても、



CSでの奉仕の中では、それ以上の収穫があるのです。

子どもたちに励まされ、また、本気でぶつかってくださる先生方の姿勢にも。感謝です。主日礼拝でのCSの特別賛美では、会場から消えてしまった高

学年を探しに行くわけにもいかず、ある先生が、「インタビュー」とささやいてくださり、時間稼ぎに成功。しかし、これ以上礼拝を長引かせるわけには行かずに、とうとう歌い始めたら、あの子たちが戻ってきてくれて、無事賛美終了。

みんなでお祈りしておいて良かった、とつづく思いました。主イエスはうれしい時も悲しい時も、私たちと共に歩いてくださいます。エディンバラ教会のスタッフのご奉仕に心より感謝いたします。パク先生の常に絶えない笑顔と明るさもとても印象的でした。エディンバラという素晴らしい町を訪れ、日本人クリスチャンとの礼拝と交わりを祝福して下さった主に栄光を帰します。アーメン

すべては主の奇しいみわざ

清水勝俊

南ロンドン日本語キリスト教会牧師



私にとって、このヨーロッパキリスト者の集いは、4年ぶり6回目の参加になりましたが、今回、南ロンドン日本語キリスト教会の牧師として、教会の方々と一

緒にこのエジンバラの大会に集うことができたのは、とても感慨深いものがありました。多くの懐かしい方々と再会し、みなさんに以前と全く変わらず暖かく迎えていただいて、またさらに多くの新しい出会いが与えられ、大いに励まされました。豊かなみことばの養いと主にある交わりのすばらしさは、全く変わっていませんでした。

今回久しぶりに集い、改めて感じたのは、この集いは一つのヨーロッパの大きな日本人教会なのではないかということです。ヨーロッパの各地からキリスト者が集い、それが一つの大きな主にある家族、キリストのみからだなる



教会を形造っているように思われます。願わくはこの主イエス・キリストにある麗しい交わりが、いつまでも与えられ続けられますように。やがて天において、主にまみゆるその日まで、この永遠の恵みがいつまでも与え続けられますように。

かつて、2010年、このヨーロッパキリスト者の集いで「わたしの羊を飼いなさい」との救霊の求めを聞き、その後、結局、帰国し、会社を辞め、日本の神学校に学びました。何度も思案する中、本当にこれが道なのかと思うこともありましたが、主は真実なお方、御約束に違わず、すべて実現してくださいました。すべては主の奇しいみわざであり、恵みという他ありません。今回、確かに生きて働かれる主の真実に改めて触れることができ、これからもただ、この召してくださった真実なる主に従い、与えられた使命を全うしていきたいと志を新たにさせられています。

「見よ。なんとという幸せ、なんとという楽しさだろう。兄弟たちが一つになって、ともに生きることは。それは、頭に注がれた貴い油のようだ。それは、ひげに、アロンのひげに流れて、衣の端にまで流れ滴る。それはまた、ヘルモンから、シオンの山々に降りる露のようだ。主がそこに、としえのいのちの祝福を命じられたからである。」（詩篇133:1-3）

嬉しかった日本語での賛美と交わり

ギブス路子

JRC London

第35回ヨーロッパ、キリスト者の集いに始めて参加できて、本当に恵みに満ちた4日間を体験できて感謝の気持ちでいっぱいです。

私は英語の礼拝に参加していますので、日本語でこうして讃美して、お交わりをすることがとても貴重で、嬉しい事でした。スモールグループはとても良い効果があったと思います。これからも毎日祈り、主に近づく信仰生活をしたいと思っています。小川洋先生のジョンノックス宣教師の講演がとても興味深く、感激いたしました。ありがとうございました。



小川洋牧師の講演

いかに世に流されることなく

笠間妙子

コペンハーゲン日本語で聖書を読む会

私にとってキリスト者の集いは、日本語でメッセージを聞き交わりを持てる、ほぼ唯一の贅沢な機会です。しっかり思考できる母国語で聞くみことばにかなうものはありません。

今回も信仰をもったところからの知り合いや、共通の知り合いのいる方々と再会し、さらに新しい出会いも与えられ、多くの方と親しくお話できる機会がたくさんありました。自分の信仰は自分ひとりで守ってきたのではなく、こうして多くの方の祈りがあって支えられてきたのだとつくづく実感し、感謝しています。

集いが終わり、次の日は普通に5時起きで仕事に行き、帰宅すればさまざまな約束ごとや家事に忙殺され、集いの最中に思ったことを反芻する心の余裕も体力もなく、また日々が過ぎていきます。この世に調子を合わせてはいけな、とはいえ私自身はこの世に生きる生身の人間であり、ゆえあってここに置かれています。頭を切り替え、自分を変えていたがながら、いかに世に流されることなく生きていかを続けて祈り求めています。



生まれ、育ち、また、還る場所

櫻井零

オランダ南部日本語キリスト教会



ヨーロッパ・キリスト者の集いは私が受洗した2016年より毎年参加させて頂いて、今回で3回目になる。初回はその雰囲気や驚き、2回目はCS、今回は中高科のプログラムに関わらせて頂いた。中高科で過ごすことの出来た時間は素晴らしかった。

ここに集う10代、20代の若い世代の方々はじめて交わりの時を持つことが出来

た。奉仕者の方々は、この中高科に参加したこともあるというような感じの人も多く、また、他のプログラムの奉仕に当たられているにも関わらず、手伝いに来られる方もいらっしゃった。

若いリーダーの方々は数多くの遊びや賛美を用意しておられた。参加者、奉仕者の皆で遊び、皆で賛美しているうちにそれぞれ皆の心が不思議とどんどん1つに束ねられていく気がした。

特別な時間の中で、1人1人の個性が、1つ1つの表情が、いきいきとして輝いていた。皆の輪が出来ていた。

皆の姿が美しく、眩しかった。その中心に主の臨在を感じた。皆、主の御手のうちに祝福をもって生まれ、豊かなみ恵を受けて育った/育っているのだなあ。と思わされた。



そして教職者の方々は、全員が自らのライフヒストリーを交えてメッセージを語られた。それらは心に触れる感動的なものばかりだった。

先生方の人生を主が導かれたことがはっきりと分かる証だった。若い世代の人たちの前に、また御前にへり下り語られるお姿が素晴らしかった。

私のような小さな人生を歩む者もいつかこのように、次世代の人たちに聞いてもらえるような話しが出来ればいいなと思った。



少しだけエディンバラの街を歩き、丘にのぼった。街の眺望や島の地形をながめた。この土地に吹く風を感じた。この土地のダンスを踊った。良く食べた。



どんな土地に行っても思うことがある。それは私たちが出生の時と場所を選べない。ということである。それは私たちの存在の有限性と主の御力の無限性を沈黙のうちに立証する。

しかしそうであるが故に、人が置かれた場所で育んだ風土や文化は、無常なる儂さと共に尊く遅ましい。

主によって与えられた生を真摯に歩む人の姿が、あるいはそれを満たす、あるいは照らす、あるいは包む、その光が美しいのだ。

来年の夏も楽しみになった。



私にとってのエディンバラ教会

山形 滯

第35回 “集い” 実行委員長



私が集いに初めて参加したのは2010年のマドリッド大会でした。知らない人ばかりの集いに参加するのがなんだか怖くて、日本にいる実家の父母も一緒に参加したことを覚えています。

食事のときも母と一緒にいたかったのですが、母は自分で知り合いを作って食事しなさいと言うので、空いているところに行き、エディンバラの山形で

す。と自己紹介して静かに食事しました。集いにいらっしゃる皆さんはとても親切な方ばかりなので、私が全くしゃべらないのを気にしてくださって、エディンバラ日本語教会はどんな教会なのか、どれぐらい人が集まっているのか、訊いてくださいました。

私は本当にエディンバラ日本語教会が心から大切だったので、どんな教会なのか、牧師先生のジェフン先生のこと、牧師夫人のヨンスクさんのこと、教会員の方たちのこと、一生懸命に話しました。（他に話すこともなかったので毎食、教会の話しかしていません）私の話を聞いてくださった方のおひとりの方がコメントされた事で、忘れられないことがあります。

もうそれがどなたであったのかも忘れてしまいました。それが今回の集いをエディンバラで主催するということのスタートだったのだと今は思います。その方は「あなた、とてもシャイに見えるのに、教会のことを話すときに目がキラキラ輝くのね」とおっしゃったのです。その時にああ、いつかうちの牧師先生夫妻を集いの皆さんに直接紹介したい、そうしたらなぜ私がこんなにエディンバラ日本語教会が大切かわかるでしょう、と思ったのです。（実際のところ、エディンバラという街が私には小さくて、つまらなくて、都会のロンドンに引っ越したくてたまらずだったのですが、引っ越さなかったのはエディンバラ日本語教会があるからでした）

その後、何年かして彦田理矢子さんがエディンバラに引っ越して来られて一緒に集いに参加し始め、代表者会議にも二人で出るようになりました。そして集いの主催教会が例年なかなか決まらないことも知りました。ある時、そんなことならエディンバラが主催したい、とコソ

コソ私たちは代表者会議の席で話していました。そのコソコソを聞いていらしたのが当時ケルン・ボン日本語キリスト教会の牧師先生でいらっしゃる齋藤篤先生でした。

齋藤先生がしたいと思うなら主催したらいいと思うと後押ししてくださったことで彦田さんと私は自信(?)をつけエディンバラに戻り、ジェフン先生とヨンスクさんに直談判



し、集いを開催するために動き始めました。それでも集いの計画はなかなか簡単には出来ませんでした。200名以上を収容できるような会場をエディンバラ近郊で探すことは難しく、当初は宿泊は参加者各自で取っていたが、こちらで予約するのは集いの大会会場のみ、という案も実は出ていました。

が、本当に不思議ですが、今回使ったクイーンマーガレット大学が与えられ例年のような形の集いを行うことが叶いました。集いを行う計画が始まって3年の間に実行委員の私たちにも変化がありました。

彦田さんは英国から活動拠点を移し、私も今年永住権を申請し英国に留まる予定だった予定を急遽変更してこの5月末に完全帰国したため、インターネットを使っての集い準備でした。

住む場所も計画が始まった頃とは大きく変わっていたこと、そして私たちがエディンバラに入ったのが集いの開始1日

前ということもあり、正直なところ本当に大丈夫なのだろうかと不安もありました。しかしながら、すべて神様によってこの集いは進み、細かな問題はありましたが表立って大きな問題はなく集いは終了しました。本当に感謝しかありません。

今回、メッセージを担当いただいた先生方、奉仕くださった皆様、お祈りで支えてくださった皆様、そして遠いエディンバラまで集いのためにいらしてくださった皆様へお礼を申し上げる場もなかったので、この場を借りてお礼を申し上げたいです。

本当にありがとうございました。また皆様にごちらかでお会いできたらと思います。



私たちが主イエスの似姿のように

バク・ジェフン牧師

エディンバラ日本語教会牧師



神様の恵みの中で行われた第35回の集いは、私たちすべてを神様との出会いの所に導いた感動の時間でした。神様のみこと

ばから流れる恵みの中で静かに沈黙している心からも、晚餐の上に流れる騒音のような喜びの中にも、涙がこもってある賛美の中でも、神様は臨在しておられて、集いのすべてのところを豊かにしてくださいました！

今回の集いのすべての時間、主は私たちの一步一步を共に歩いてくださいました。それは少しでも私たちの霊的な変化と成長のきっかけになりました。こんな恵みを与えた主に感謝と賛美をささげます。

今回の集会を通して私たち皆が主イエスの姿のように変化され成長し、神様へもっと近づいて行く、そして日々主の恵みと喜びで満ち溢れる信仰の姿になりますように祈って祝福します。

今回、参加して主の恵みの中ですべての時間を分かち合った各地の教会に感謝の心を伝えます。すべての教会の愛の支え、祈りの力があつたから今回の大会がもっと素晴らしい時間になったことを信じます。

恵みのメッセージ、CSや中高プログラムへの奉仕、また見えない所で主の栄光のため自分のすべてを捧げたすべての兄弟、姉妹たちにも感謝の言葉を伝えます。

主の妙なる恵みと慰め、力がすべての教会の上に注がれますように！

